

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 **加太・和歌の浦の活性化による移住促進プロジェクト**

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標:転入者数 8,775人/年(H30)→ 9,300人/年(R6)  
観光入込客数 669万人/年(H30)→ 715万人/年(R6)

1 事業概要

<b>事業目的</b>	①友ヶ島など観光客誘客に大きな成果がでている市北西部に位置する加太エリアにおいては、豊かな自然を生かした観光やスポーツによる交流人口の増加を図るとともに、東京大学の研究所等と連携し、アート等によるブランディングを行い、ターゲットを定めて訴求し、関係人口を増加させ、二地域居住を含む移住・定住地として選ばれるエリアとなることをめざす。 ②2017年に文化庁より「絶景の宝庫和歌の浦」として日本遺産の認定を受けるなど、風光明媚な景観や歴史的な祭り・芸能など文化活動が盛んである市南西部の和歌の浦エリアにおいては、芸能・歴史を生かしたまちづくりによる交流人口の増加を図るとともに、地域に根差した産業である漁業について、観光施策と融合した取組を展開し、長期滞在型の観光エリアをめざすことで、域内消費の拡大や域内の良好な経済循環を図る。		
<b>実施年度</b>	R3	<b>事業費(千円)</b>	52,992,388円 (うち交付金充当26,496,192円)
<b>実施内容</b>	加太観光協会や漁協、自治会など地域の主要なメンバーで構成された加太まちづくり会社や和歌の浦における歴史的風致維持向上支援法人など地域団体が主体となり、民間事業者や地域住民との合意形成を図りながら、環境・アート・歴史を軸に地域資源のブランディング強化と、効果的なプロモーションを行い、国民文化祭や和歌祭400周年、野奈浦棧橋竣工に向けて事業を展開していく。  (R3主な事業) 【加太エリアの活性化】 ・友ヶ島の受け入れ体制強化 ・棧橋架替工事に係る調査  【和歌の浦エリアの活性化】 ・和歌祭の準備と啓発活動の実施:2022年に400年を迎える和歌の浦の伝統行事である和歌祭の機運醸成  【移住・定住に向けたプロモーションに係る経費】 ・移住者受入支援		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (H29)	目標値(上段) 実績値(下段)					
		H30	H31	R2	R3	R4	R5
		①加太・和歌の浦エリアへの転入者数(単位:人)	214	219 194	231 199	251 194	274 172
②加太・和歌の浦エリアにおける空き家・空き店舗の活用件数(単位:件)	0	0 2	2 2	6 7	14 12	18	24
③加太・和歌の浦エリアへの観光客数(単位:千人)	3,962	4,012 4,142	4,062 4,299	4,152 2,906	4,242 2,968	4,262	4,292
④和歌の浦エリア漁業従事者数(単位:人)	151	156 137	161 134	171 136	186 134	196	206

3 事業効果

本事業終了後における事業効果

A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)  B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)  C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)  D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)  E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	C	新型コロナウイルス感染症の更なる拡大の影響を受け、観光客を含む関係人口が減っており、また、移住者への現地案内を一定期間中止するなど十分な移住支援体制が築けなかったこともあり、全体としてKPIの達成は芳しくなかった。 しかしながら、各地域の更なる魅力向上や、移住者受入について地域住民の機運醸成ができた等、事業開始時より取組が前進したと考えられる。
---	---	--

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>①コロナ禍にあっても順調に事業を進めており、一定の成果を収めているが、今後はプロジェクト全体としての効果を意識し、時代の変化に合わせて各事業の必要性の見直しを行いながら事業を進めていただきたい。</p> <p>②各事業に関連する様々なデータを把握しながら、事業の進捗管理をしっかりと行っていただきたい。</p> <p>③委託事業についても現地確認をするなど、管理を徹底していただきたい。</p> <p>④今後はコロナとどう向き合いながら事業を展開していくのか、また財政面をどうしていくかについてよく検討していただきたい。</p>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

## 地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 **新技術の活用と海外展開の支援による産業振興**

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

関連のある数値目標:新商品の開発件数 5件/年(R1)→ 5件/年(R6)  
 企業立地による新規雇用者数 84人/年(H27~30平均)→ 84人/年(R6)

### 1 事業概要

<b>事業目的</b>	これまで本市は「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」を目指し、地域産業の発展および経済の活性化を図ってきた。創業件数はH28-30で355件と目標(272件)を上回り、農業産出額は近年3-6%の伸びを見せるなど、一定の成果も見られる。他方、IT等新技術の導入割合や製造業の海外販売割合の低さ、若年層の人材流出や交通ネットワークの非効率性など、産業が発展する上で課題もある。本市はこれらの課題を伸びしろであると捉え、支援を必要としている市内企業が生産性向上や海外展開・販路拡大に積極的に取り組めるよう支援するとともに、人材や働く場所の確保や交通ネットワークの充実を図るなど経済活動を円滑にする基盤を整えることで、市内企業が各々の持つ強みやポテンシャルを發揮して、域内外から稼ぐ力が最大限高まり付加価値額を増大させることで、本市経済の活性化を目指す。		
<b>実施年度</b>	R3	<b>事業費(千円)</b>	45,982,575円 (うち交付金充当22,201,335円)
<b>実施内容</b>	IT等導入による生産性向上の重要性について啓発するセミナーの開催やIT等を導入する際の経費の補助、AI・IoT・ロボット等先端技術を活用した事業での創業者への補助などIT等新技術活用の支援をするとともに、海外・県外への販路開拓のため国内外で開催される大規模な展示会・見本市等への出展に係る費用の補助や輸出支援、地元商工業の優れた技術や商品の魅力を周知するための補助、姉妹都市等との交流における物産展等や販路拡大支援等を行う。加えて、学生や女性のため合同企業説明会等による市内企業の雇用促進、企業立地アドバイザーを活用した企業誘致の推進による産業を支える人・働く場所の確保や、経済活動を円滑にする交通ネットワークの充実に取り組む。 (R3主な実施事業) 【IT等新技術活用の支援】 ・IT・IoTツールの導入補助 【海外展開・販路拡大の支援】 ・国内で開催される見本市への出店補助 【産業を支える人・働く場の確保】 ・合同企業説明会、オンライン企業研究会 【経済活動を円滑にする交通ネットワークの充実】 ・地域バス実証運行調査		

### 2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)			
		実績値(下段)			
		R2	R3	R4	
①製造業の粗付加価値額(単位:億円)	5,705	5,763.0 6,056.5	5,822.5	5,883.5	
②本市の支援を通じて新たにIT等新技術を導入し、生産性の向上・新たなビジネスモデルの創出・新商品やサービスの開発・業務プロセスの改善等が実現した企業数(単位:件)	0	4 9	9 16	15	
③本市の支援を通じて新たに海外販路開拓をし、売上を増加させた企業数(単位:件)	0	4 0	9 1	15	
④本市の支援を通じて市内に進出した企業又は事業規模を拡大した企業の新規雇用者数(単位:人)	0	80 174	164 225	252	

### 3 事業効果

#### 本事業終了後における事業効果

A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、展示会が相次いで中止となり、海外販路開拓関連のKPIは未達成であった。一方で、これまでの事業の周知が進んできたこともあり、市内企業のIT等新技術の導入への関心の向上や企業誘致の推進につなげることができ、本事業による成果が着実に出ていていると考えられる。
---	---	---

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>①コロナ禍にあっても積極的に事業を進めており、一定の成果を収めているが、今後は市内産業の更なるデジタル化への支援と市外へのPRに努めていただきたい。また、市内企業に対する支援制度の周知にも努めていただきたい。</p> <p>②企業立地について、アドバイザー業務は重要であるが、今後は更に一步踏み込んだコーディネーター業務にも展開して事業を進めていただきたい。</p> <p>③地場産業と学生の関わりについて、学校単位での参加や就職に近い中高生もターゲットにするなど、積極的に交流する機会を創出していただきたい。</p>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 関空立国デスティネーション化推進計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元々なまち

関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人/年(H30) → 715万人/年(R6)  
観光消費額 47,554百万円/年(H30) → 52,025百万円/年(R6)

1 事業概要

事業目的	関西国際空港は2011年のLCC便の就航開始以降、総発着回数、総旅客者数が2018年度では過去最高となり、インバウンド客をはじめとする来訪者が空港利用者数の伸びと比例して急増している。このような状況下において、空港に近いという地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の消費喚起につなげるナイトタイムエコミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を図るとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地としての機能強化を図る。		
実施年度	R3	事業費(千円)	2,724,980円 (うち交付金充当1,362,490円)
実施内容	<p>タビマエ・タビナカでの泉佐野市や和歌山市、紀の川市のインバウンド等の嗜好に合わせた情報をWEB上で発信することで、目的地として選定してもらい、地域での消費喚起による経済循環を作り上げる。</p> <p>【和歌山市】 インバウンド客の獲得に向けて、観光施設や飲食店情報、モデルコース等、旅行者の需要に応じた情報発信やファミトリップの実施などにより観光誘客を図る。</p> <p>(R3主な実施事業) 【インバウンド誘客促進事業】 ・観光情報発信事業 ・ファミトリップ受け入れ等</p>		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (H30)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R2	R3	R4	R5	
①市内宿泊施設のインバウンド宿泊者数(単位:人) ※泉佐野市、和歌山市、紀の川市の合計	1,040,000	1,165,000	1,295,000	1,435,000	1,631,000	
		185,000	60,000			
②(仮称)りんくう野外文化音楽堂の利用者数(単位:人)	0	0	500	3,500	10,000	
		0	2,696			
③ガストロノミーツーリズムの利用者数(単位:人)	0	100	350	750	1,350	
		0	0			
④当該事業による消費効果額(単位:千円)	0	320,000	660,000	1,120,000	1,816,000	
		250,000	160,000			

3 事業効果

		<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	E	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、各KPIは目標値を大きく下回る結果となり、事業の評価が困難である。</p> <p>一方で、各国で海外渡航が解禁された時に、本市への旅行需要を喚起できるよう、ウェブサイト内の写真や情報を更新することができた。</p> <p>今後もアフターコロナに向けて、旅行者が望む情報を発信できるよう情勢を把握する必要がある。</p>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>①コロナ禍でKPIである観光客数は激減しているが、工夫をしながら事業に取り組んでおり、事業として前進していると考えられる。</p> <p>②Webサイトでの発信数を増加させる仕組みづくりや、SNSの分析を行うことで、Webサイトへのアクセス数の増加に取り組んでいただきたい。</p> <p>③コロナ禍やアフターコロナ、2025開催予定の大阪・関西万博など様々な状況を考慮し、その状況に応じてターゲットを変えた観光施策を検討するなど、柔軟に対応いただきたい。</p>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 まちなか活力再生と市民総活躍のまちづくり

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
関連のある数値目標:まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→ 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1)→ 25%(R6)

1 事業概要

<b>事業目的</b>	和歌山市駅から和歌山城を中心としたエリアでは、キーノ和歌山や商店街などの商業施設、こども科学館や博物館などの公共施設、和歌山城を集客拠点とし、国民文化祭開催のタイミングと合わせて市内外から多くの人を集め夜間を含めた全体の回遊性を高めながら、多世代の交流や滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組を構築する。また、郊外の地域拠点において、住民が主体となり、地域の特色を生かしたまちづくりを推進し、市街地での取組と有機的に結びつけ、まちの持続的な発展につなげる。 そしてこれらの取組について、若者をメインとした地域住民が一丸となって、民間と連携し市全体の魅力の向上やPR活動、賑わいづくりに自主的かつ持続的に取り組んでいくことができるまちづくりを目指す。将来的には、若者の地元定着につなげていく。		
<b>実施年度</b>	R3	<b>事業費(千円)</b>	157,601,812円 (うち交付金充当72,164,522円)
<b>実施内容</b>	①地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化 商業団体や個店等が3密対策や時間帯誘導、商店街の魅力を発信するために行う事業や夜間の賑わいの創出が見込まれる事業に対し支援を行う。また、商店街の空き店舗等を活用した新規出店にチャレンジしやすい環境づくりや、若者と連携した若者目線による商店街の活性化を図る。 ②市街地の誘客性の向上 市のシンボルである和歌山城や、市街地にある拠点の誘客性を高め、拠点利用者を増加させることにより夜間も含めた市街地の流動人口の増加と拠点間の回遊を促進する。 ③地域拠点の機能強化 郊外にある地域拠点を地域住民や地域の団体等民間主導によるまちづくりを推進し、地域の高齢化や人口減少等の地域課題を解決し地域の特色を活かした地域拠点の形成により人口流入を図る。 (R3主な実施事業) 【地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化】 ・空き家・空き店舗を活用したお試し出店 【市街地の誘客性の向上】 ・和歌山城でのおもてなし体制の充実 【地域拠点の機能強化】 ・公共空間の賑わい創出や個性豊かな地域づくりに係る支援		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
まちなか流動人口(単位:人)	34,850	34,950 38,191	35,220	35,630		
まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数(単位:件)	0	5 6	11	18		
和歌山市駅の1日当たり乗降客数(単位:人)	16,455	16,555 16,898	16,670	16,785		
地域住民によるまちづくり活動に対する市民満足度(単位:%)	14.1	14.6 7.8	15.3	16.0		

3 事業効果

<b>3 事業効果</b>	<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に留意しながら、国民文化祭開催のタイミングと合わせたまちなかでイベント開催や、魅力的なまちづくりに取り組むことにより、まちなかの賑わい創出の一助となった。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えない場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 わかやましゲートウェイプロジェクト～食と農水産と観光の融合～

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標:観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6) 観光消費額 47,554百万円(H30)→ 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	四季の郷公園に本市初の道の駅(令和2年7月)、中央卸売市場の総合食品センター棟「わかやままるしゅ」(令和2年7月)の農・水産物の発信拠点がオープンした。これら2つの拠点に加え、新市民図書館(令和2年6月オープン)を含めた南海和歌山市駅前再開発、和歌山城ホールの整備(令和3年7月)などの本市の新たな拠点と南海和歌山市駅周辺の市街地を観光や物流の玄関口として最大限に活用する。加えて農業のブランド化・高付加価値化を促進することで持続可能で未来に希望の持てる農業を育成し、観光と食(農業)の効果的な融合により、観光客の周遊や観光消費の拡大を推進する。		
実施年度	R3	事業費(千円)	95,987,024円 (うち交付金充当47,602,422円)
実施内容	令和2年7月に本市初となる道の駅が四季の郷公園にオープン(本市東部)、令和2年7月に中央卸売市場に総合食品センター棟がオープン(本市西部)、新市民図書館の再整備等と和歌山市駅前の再開発や和歌山城ホールの整備が進んでいる(本市中心市街地)。本市の新たな拠点を活用し、地場産業と観光を融合させた施策を展開し、観光消費額の拡大を図る。  (R3主な実施事業) 【和歌山市を売り出す(効果的なプロモーション)】 新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、国内外でのプロモーションを強化する。 【和歌山市へ招く(体験型観光コンテンツの充実)】 新型コロナウイルス感染症の影響等状況の把握に努めながら、本市3つの拠点ごとに集客性のある各種イベントを実施する。 【和歌山市でもてなす(地域資源を活用したおもてなし体制の充実)】 しょうが、とうがん、きゅうり、なすといった地域農産品の生産性向上やブランド化を推進するとともに、別途整備する和歌山城前広場で民間事業者が運営する食べ歩き施設、先行してオープンしている四季の郷公園、中央卸売市場及び中央卸売市場に新たに整備する予定の道の駅において地域産品等を有効活用する。また、観光客が独自性のある文化・歴史を体感できる体制を整える。これらを観光産業と組み合わせることで地域産品の販路拡大や観光消費額の増加といった相乗効果を図る。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
観光消費額(単位:百万円)	47,554	23,777 34,702	33,337	47,637		
年間宿泊客数(単位:千人泊)	959	479 744	672	967		
四季の郷年間来場者数(単位:万人)	8	8 25	21.3	28.5		
中央卸売市場食品センター棟の年間売上額(百万円)	60	61 90	63	66		

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、宿泊客や消費額は激減しているものの、屋外での体験イベントを充実させ、感染症予防に配慮した観光振興を推進することで、想定していたよりも減少を食い止めることができた。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		



地方創生拠点整備交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 有吉佐和子邸復元整備計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ：住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標：日頃から芸術・文化活動を行い、又は鑑賞する機会を持っている市民の割合 49.3%(R1)→50%(R6)  
観光客入込客数 669万人/年(H30)→715万人/年(R6)

1 事業概要

事業目的	まちなかの文化と観光施設を核として、和歌山市に愛着を持った市民や観光客が当該施設や近隣施設、商店街等でのイベント等を通じて、文化活動や交流を行い、当該施設を中心に回遊することにより、市民や観光客のまちなかでの滞在時間を延ばし、近隣の商店街等での域内の消費が活性化されるまちなかを目指す。		
実施年度	R3	事業費(千円)	117,929,986円 (うち交付金充当55,844,658円)
実施内容	<p>当該エリアに文化と観光の両面で核となる、本市出身で著名な作家である有吉佐和子氏の邸宅を復元する。有吉佐和子氏の文学を中心に置きながら、本市の近代文学や演劇、有吉佐和子氏が好んだ茶道など幅広い分野を横断的に扱い、市民や観光客の文学やまち歩き拠点とする。</p> <p>(R3実施事業) 有吉佐和子邸の復元整備工事、備品購入、移築物の移設、看板等の製作、来客カウンタの設置、電話及びネット回線の整備を行った。</p>		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値 (R2)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①有吉佐和子邸入館者数(単位:人)	0	0	2,500	3,000	3,200	3,400
②有吉佐和子邸イベント来場者数(単位:人)	0	0	100	120	140	160
③まちなか流動人口(RESAS休日月別平均)(単位:人)	34,850	34,950	35,150	35,450	35,750	36,050
		38,191				

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>施設整備期間内に、まちなかエリアに文化と観光の両面で核となる、有吉佐和子邸を整備することができた。</p> <p>今後は、資料の展示に加え、定期的なイベントの開催やカフェスペースの運営等により、文学ファンだけでなく、市民や観光客が訪れる施設として活用していくことで、まちなかの賑わい創出につなげる。</p>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	<p>①オープン時や当初のイベントにおいて、予想を上回る多くの来館者があり、相当程度の成果を収めており評価できる。</p> <p>②一過性のもとならないよう、今後の来場を定着化するための戦略を作るなど、計画的に管理していただきたい。</p> <p>③図書館をはじめ近隣施設を連携しながらイベントを行うなど、ソフト事業を充実していただきたい。</p> <p>④施設の運営を今後どうしていくか民間の参入も視野に入れながら検討いただきたい。</p>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生拠点整備交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 城前広場食べ歩き施設整備計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標: 創業件数140件/年(H30)→140件/年(R6)

1 事業概要

事業目的	本市のシンボルである和歌山城、本市の玄関口である南海和歌山市駅に整備された、再開発事業により移転した新市民図書館と飲食店やスーパーが入る複合施設「キーノ和歌山」、和歌山城前に整備される「和歌山城ホール」や城前広場を訪れた観光客が、拠点間を歩いて回遊することで、和歌山市駅から和歌山城を中心としたまちなかエリアでの滞在時間を延ばし、エリア全体の消費活性化を目指す。		
実施年度	R3	事業費(千円)	25,080,335円 (うち交付金充当11,286,476円)
実施内容	本市のシンボルである和歌山城前で行う、人々が集い憩う交流空間の創出のための城前広場整備に合わせて観光客が食べ歩きを楽しめる施設を3棟整備し、和歌山城や近隣の商店街、キーノ和歌山などの施設を回遊する観光客の拠点とする。 (R3実施事業) 城前広場に鉄骨造のテイクアウト専門店を3店舗設置した。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (R2)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
①施設売上(単位:千円)	0	0 8,357	27,000	28,350	29,768	31,256
②施設利用者数(単位:人)	0	0 10,455	54,000	56,700	59,535	62,511
③まちなか流動人口(RESAS休日月別平均)(単位:人)	34,850	34,950 38,191	35,150	35,450	35,750	36,050

3 事業効果

		<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	和歌山城前広場に観光客が食べ歩きを楽しめる施設を施設整備期間内に整備することができた。 今後は、当該施設をまちなかエリア内の観光拠点回遊のための拠点とし、まち歩きルートの作成や施設PRなどのソフト事業を併せて実施することで、滞在時間を延ばし、エリア全体の消費活性化を目指す。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかつた (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	D	<p>①国民文化祭までに当該施設を完成させ、まちなかの賑わいに取り組む姿勢は評価できるが、売上げの見通しや計画性が弱い印象である。</p> <p>②施設を長期的に活用していくための計画について、採算性等の視点や動線の視点から早急に改善していただきたい。</p> <p>③滞在時間を延ばし、エリア全体の消費活性化を目指すため、学生や地域のこどもと連携し、施設の経営に参加してもらいながら学びの場にもしていくなど、様々な仕掛けを作っていただきたい。</p>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		